

事務事業評価シート 平成 29 年度事後評価・決算

平成 31 年 2 月 21 日時点

事務事業名		コード	38920	中学校図書館司書配置事業	予算科目	会計	一般	款	10	項	3	目	2	事業種別	所管課	学校教育課	担当班	指導班
基本施策		11		学校教育の充実	根拠法令	改正学校図書館法(H26.6.27)ほか								☒ 主な事業				
施策の展開		21		教育支援体制の充実	戦略事業	114	学校図書館司書配置事業							☐ 国土強靱化地域計画				
施策の展開					戦略事業									☐ 新市建設計画				
														☐ 定住自立圏構想				
														☐ 主要事業				

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない	③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 25 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	●「学校図書館司書の配置」→学校教育の教育内容の充実を目的に、学校図書館司書を各中学校に配置する。学校図書館の環境を整え、市内中学校生徒が図書に触れ合う機会を充実させる。 ●平成27年度からは毎週1日各校に司書が巡回。 【学校図書館司書の主な業務】学校図書館の環境整備(掲示物の作成、季節に合わせた書籍コーナーの設置、図書室への関心を高める仕組み〔図書室外含む〕、図書便りの作成等)、蔵書管理、新書購入時の助言、図書廃棄時の助言、生徒に対する図書貸し借り業務、授業の中で扱う書籍の収集、準備(市立図書館との連絡・調整含む)、生徒に対する本のアドバイス・レファレンス、読み聞かせ、ブックトーク(数冊の本を同時紹介)	国では、平成24年度から学校司書の配置が進むよう、単年度約150億円の地方財政措置(1週当たり30時間の職員をおおむね2校に1人配置することが可能な規模の措置)をとった。それをきっかけに、旭市でも平成24年度に募集をし、平成25年度から1人体制で開始した。	平成26年6月27日に、学校図書館の職務に専ら従事する職員を「学校司書」と位置付けて各学校に配置するよう求めた「学校図書館法の一部を改正する法律」が公布され、平成27年4月1日から施行された。これにより、「学校司書」が初めて法令に位置付けられた。	生徒から「図書館司書さんと本のことを相談できてよかった。もっと学校に来てほしい。」という意見があった。教職員からは、学校図書館司書配置について、「効果がある。」という意見があった(100%)。また「巡回日数を増やしてほしい。巡回日(曜日)を固定化してほしい。」といった要望があった。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(29年度の決算)		単位:千円	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)
1. 労災保険料	371	学校図書館司書1名分	366	359	371	371	385
2. 臨時雇賃金	2,214	学校図書館司書1名分の賃金	1,365	2,192	2,217	2,214	2,350
3. 普通旅費	6	千葉県教委主催の研修への参加	2	2	2	6	5
4. 消耗品費	5	USBメモリ等	0	0	0	5	5
② 特定財源の内訳(29年度の決算)		単位:千円	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)
1. 国庫支出金	0						
2. 都道府県支出金	0						
3. 地方債	0						
4. その他	0						

前年度	
増減理由	

事業費		単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)
費目内訳	1. 労災保険料	千円	366	359	371	371	385
	2. 臨時雇賃金	千円	1,365	2,192	2,217	2,214	2,350
	3. 普通旅費	千円	2	2	2	6	5
	4. 消耗品費	千円	0	0	0	5	5
	事業費計(A)	千円	1,733	2,553	2,590	2,596	2,745
財源	1. 国庫支出金	千円					
	2. 都道府県支出金	千円					
	3. 地方債	千円					
	4. その他	千円					
	5. 一般財源	千円	1,733	2,553	2,590	2,596	2,745

従事職員数	常時	1人	最大	2人	×	12日	=	延べ	24人
-------	----	----	----	----	---	-----	---	----	-----

(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

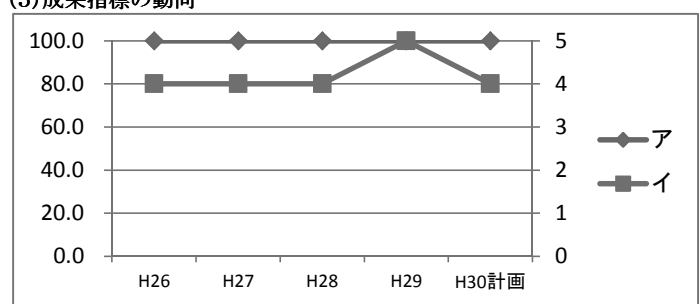
手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	29年度実績(29年度に行った主な活動)							
手段	学校図書館司書を1名採用し、市内中学校5校を巡回。学校図書館の環境整備と生徒の読書指導を実施。配置に対する年1回のアンケート調査を実施。	ア 学校図書館司書一人の担当校数	校	4	5	5	5	5
		イ 1校当たりの年間巡回回数	日	27	39	39	39	39
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	対象・意図							
目的	・学校図書館施設、図書 ・市内中学校生徒 ・学校図書館施設が利用しやすい、中・高生等の心身の発達に資するコーナー(思春期特有の悩み等)を作成することで、生徒が積極的に来館する環境に近づく。	ア 年度末アンケート調査での肯定的評価の割合(%)	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	・学校図書館施設、図書 ・市内中学校生徒 ・「図書便り」を発行して広報活動をしたり、図書委員と協力して作業を行ったりすることで、学校図書館司書と生徒の本を介した交流が生まれ、市内中学校生徒等が、読書の楽しさや大切さを理解する。	イ 学校図書館司書が作成する「図書便り」の1校当たりの発行枚数(年間)	枚	4	4	4	5	4

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		成果向上余地	かなりある	ある程度ある	ほとんどない
施策貢献度	大きい		②		
	普通				
	小さい				

② コスト削減優先度評価結果		コスト比率	下位1/3	中位1/3	上位1/3
評価結果	①				
	②	(2)			
	③				
	④⑤				
	⑥				
	⑦⑧				
	⑨				

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	② 成果の状況	③ 今年度取組事項(30年度に取り組む主な事項について記載)	今後の方向性
	完了 ☐ 順調 ☒ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難 ☐	成果指標ア 成果指標イ	時期	内容
評価内容	【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)	成果指標ア 成果指標イ	31年3月(8月除く)まで	図書便りの発行回数を増やす担任と学校図書館司書との連携を図り、チームによる授業を行う。
	【コメント】(低下の場合、その理由)	成果指標ア 成果指標イ		
評価内容	比較	成果動向	拡大 ☒ 縮小 ☐ 現状維持 ☐ 廃止・休止 ☐ 見直し ☐ その他 ☐	平成30年度～随時
	25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30計画	11.0 0.0 0.0 0.0 0.0		